嘔吐物の処理セット (ノロウイルス対策)

1、内容物：ハイター(40ml)、泡ハイター、消毒液作成用ペットボトル(2L)、保護メガネ、N95マスク、エプロン、手袋、ビニール袋(451×3)、雑巾、ペーパータオル(ティッシュ型、ロール型)

2、集団感染の事例

2006年12月、東京都豊島区のホテルで、ノロウイルスに感染していた一人の利用者が3階と25階の通路で嘔吐した。従業員は床を普通の洗剤できれいに清掃したが、滅菌処理はされなかったため、3階と25階の通路を通った436名に集団感染した。

3、注意事項

毎年12月～2月は、ノロウイルスのピーク時期です。ノロウイルスにかかっているかどうかの検査は難しく、乳児と高齢者以外は、ノロウイルス検査に医療保険の適用はありません。特効薬はなく、水分と電解質を補給して自然治癒を待つしかありません。普通は3～4日で症状はおさまりますが、死亡例もあります。症状は消えてもノロウイルスは1ヶ月くらい身体に残っている場合があります。吐き気はいきなり来ることもあるので、コントロールが難しく、いきなり嘔吐される場合があります。

嘔吐されても、その人がノロウイルスに感染しているかどうかは現場ではわかりませんが、この時期はノロウイルスを疑った方が無難です。嘔吐物を適切に処理しないと集団感染のおそれがあります。ノロウイルスは、次亜塩素酸(ハイター)でしか滅菌できません。

(アルコール不可) または、85℃以上の温度で1分くらいで滅菌できます。もし近くで嘔吐されたら、周囲のいる方はすぐ現場を離れてください。ノロウイルスの直径は、38nm(ナノメートル)で非常に小さく、乾くと空気中にも浮遊し、空気感染の恐れがあります。普通のサージカルマスクで除去できるサイズは4000nmであり、N95マスクでも75nmのものしか、除去できません。

(但し、ウイルスが水滴や塵の中に存在する場合は普通のマスクでも除去可能) ノロウイルスは口から入ったり、鼻を通して、空気中からも入り、感染することがあります。

4、嘔吐物を処理する人の選出

- ・1人で処理します。ウイルスわずか10個で、感染のリスクがあります。ノロウイルス・感染防止の知識がある人。免疫力のある方。(疲れている方は免疫力が低下していますので不向きです。)

5、準備するもの

- ・嘔吐物を入れるバケツを1個用意してください。このバケツに直接入れるのではなく、中にビニール袋を入れて入り口をあけ、その中に嘔吐物を拭き取ったペーパータオルや雑巾を捨てます。

6、処理の手順

- ・マスク、保護メガネ、エプロン、手袋をつけます。
- ・消毒液作成用ペットボトル(2L)に水を2リットル入れ、その中にこの処理セットの中にあるハイター(40ml)を入れます。(1000ppmの消毒液を作ります。)ハイターが目に入らないようご注意ください。
- ・バケツに、この処理セットの中にあるビニール袋(451×3)を入れ、入口を開いて汚物を入れることができるようにします。
- ・床面の嘔吐物(おうとぶつ)の上に、この処理セットの中にあるペーパータオル、又は雑巾をそっとのせ、その上に消毒液をゆっくり注ぎます。(雑巾は使い捨てです。再利用はできません。必ず廃棄してください)
- ・汚物を入れるバケツに、汚物を吸い取ったペーパータオルや雑巾を捨てます。また床面をきれいにします。
- ・嘔吐物の周囲3mくらいにはウイルスが広がっている可能性があります。周囲を含めて、消毒液で丁寧に拭くか、泡ハイターでゆっくり上部から、周囲に吹きかけます。(いきおいよくするとウイルスが舞い上がる可能性があるので注意) 畳の場合は、表面から内部に十分に消毒液を染み込ませないと滅菌できません。滅菌されるまでは10分くらいはかかります。
- ・汚物を入れたバケツに消毒液を十分に浸し、バケツの中を滅菌します。(滅菌されるまで10分くらい待ちます。)
- ・汚物を入れたビニール袋の口をしぼって、もう1枚のビニール袋を出してその中に入れます。また、その中に使用したマスク、保護メガネ、エプロン、手袋をいれ、袋の口を絞って、廃棄します。手袋をはずす時は、手袋の表面をさわらないようにします。その後、手を石鹸で十分に洗います。
- ・完全にウイルスを滅菌しないと、ノロウイルスは1ヶ月以上生き延びます。(ハイターは最終的には塩になります。)